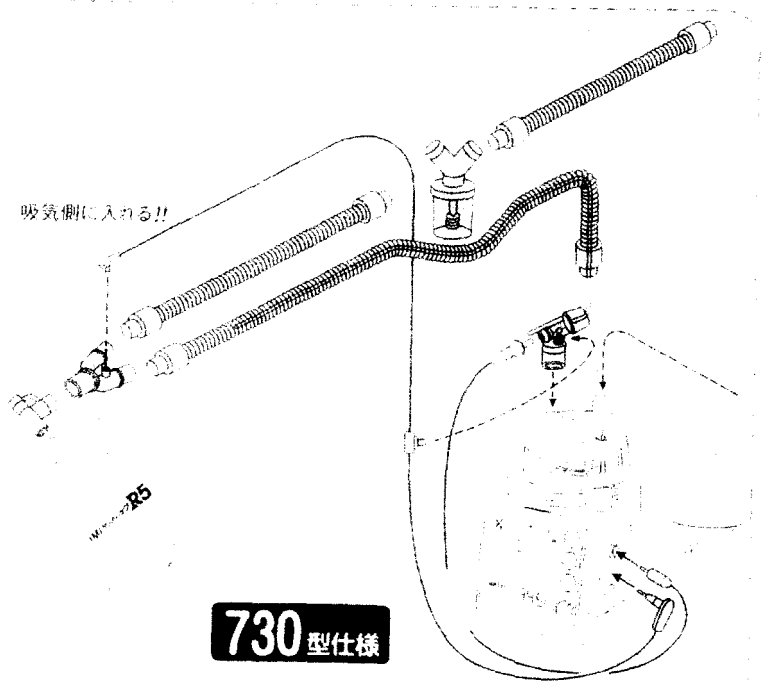
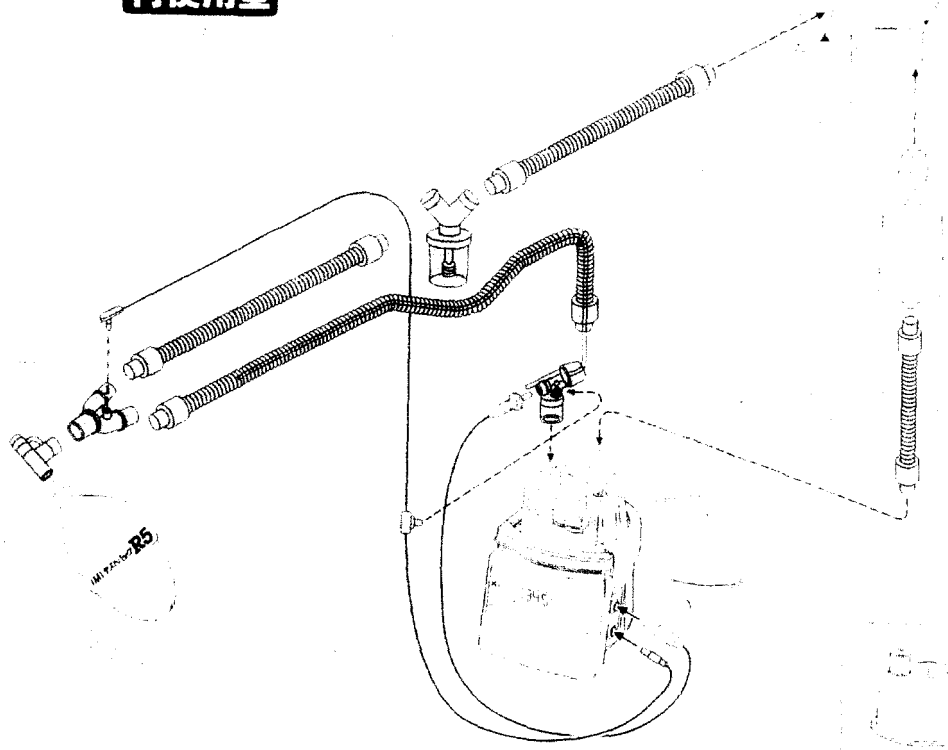
AVEA 呼吸回路のセットのしかた

IMI アイ・エム・アイ株式会社
048(988)4411 011(787)9010 022(392)6820 048(988)4422
03(5246)9461 045(534)1155 054(255)1278 0561(63)7177
06(6385)5233 06(6385)5205 086(241)9585 092(473)1871



730型仕様

再使用型



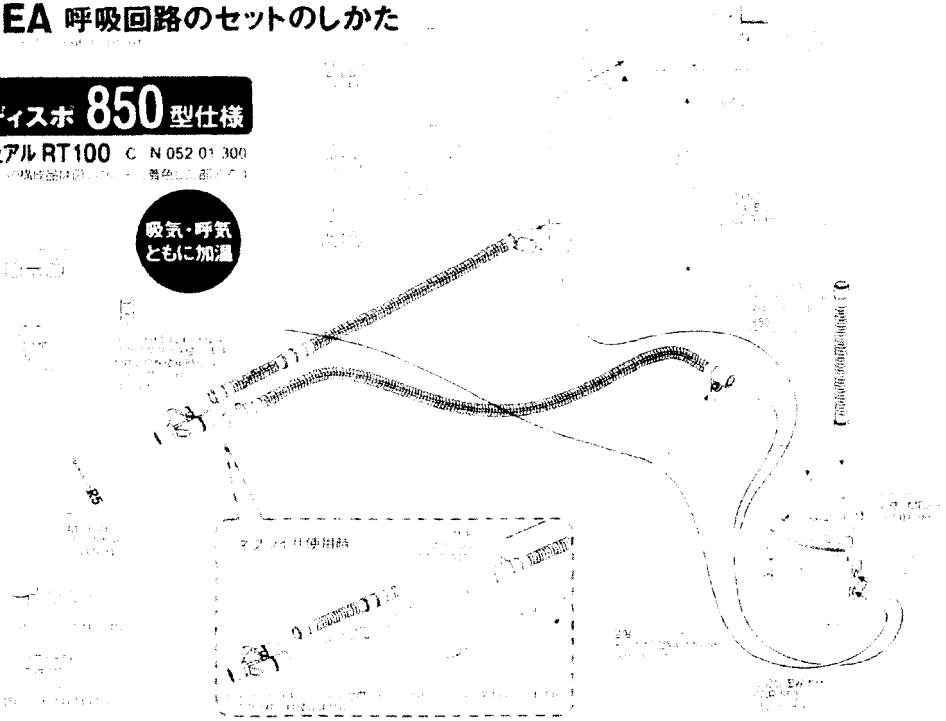
850型仕様

AVEA 呼吸回路のセットのしかた

ディスポ 850 型仕様

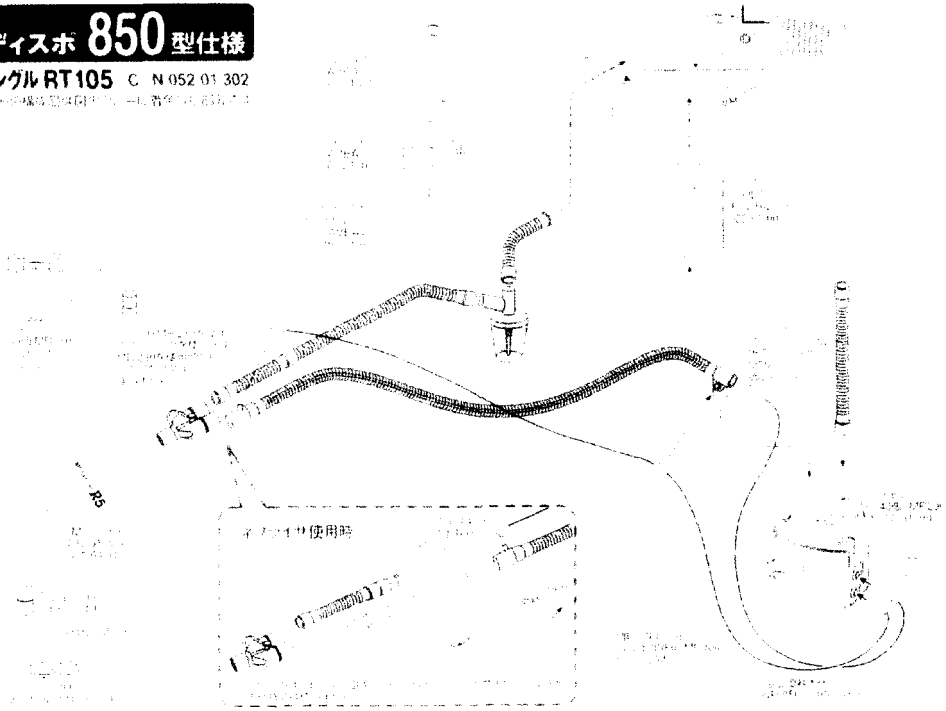
テュアル RT100 C N052 01 300

吸気・呼気ともに加温



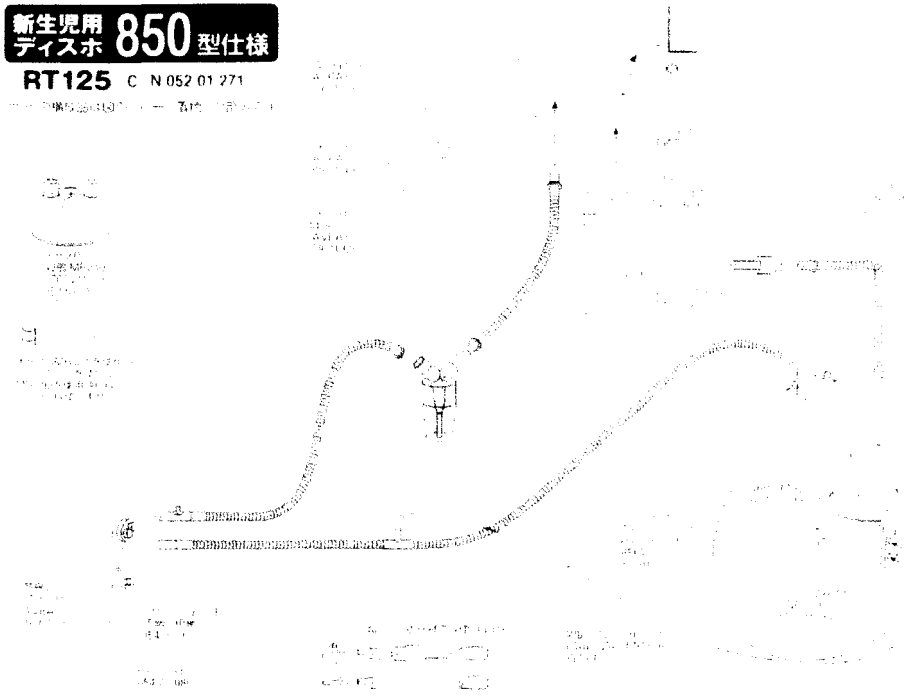
ディスポ 850 型仕様

シングル RT105 C N052 01 302



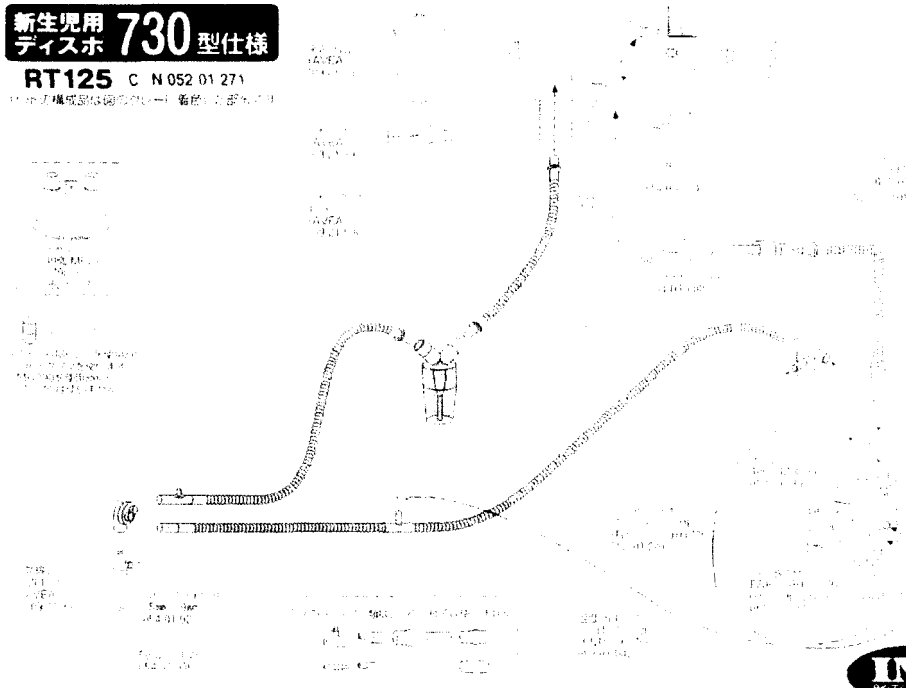
新生児用 ディスポ 850 型仕様

RT125 C N052 01 271



新生児用 ディスポ 730 型仕様

RT125 C N052 01 271



AVEAの基本的な使い方

成人／小児／新生児用
人工呼吸器
米国 ハイアンス レスピラトリケア社製

IMI
本社 048(988)4411 札幌 011(787)9010 仙台 022(392)6820 埼玉 048(986)4422
東京 03(5246)9461 横浜 045(534)1155 静岡 054(255)1278 名古屋 0561(83)7177
広島 082(285)6233 大阪 06(6385)5205 岡山 086(241)9585 福岡 092(473)1871

使用前の注意

人工呼吸器チェックリスト「1. 使用前の点検手順」による点検をしてください

1
2
3
4
5
6
7
8

使用中のチェックポイント

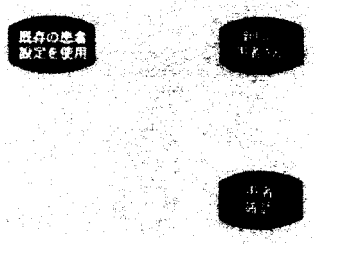
詳しくは、人工呼吸器チェックリスト「2. 使用中の点検手順」を参照

- 人工鼻
- ネブライザ
- 設定条件・アラーム値
- 所定の換気が行われていること
- 酸素濃度

電源をONにした後の操作

変更後は、必ずフロック画面に表示されているそれぞれの「確認ボタン」にふれてください。換気条件やアラームの場合、ダイヤルの左上にある「確認キー」を押してください。この操作をしない場合、設定は変更されません

1 患者さん（新規・既存）の選択

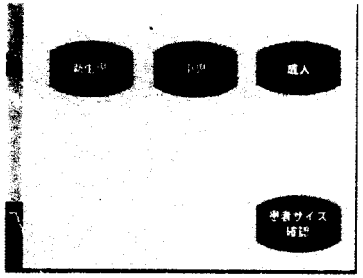


❶新しい患者さん

❷既存の設定

❸

2 患者さんのサイズの選択



❶

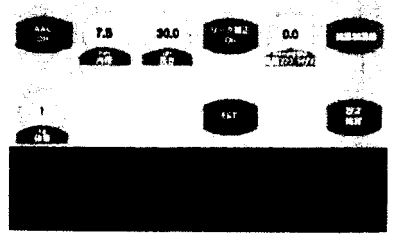
❷成人

小児

新生児

❸

3 ESTの実施と加温加湿の選択



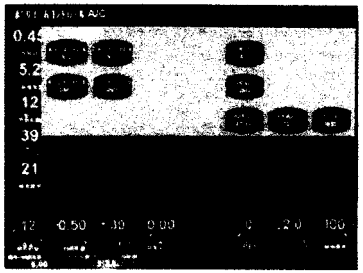
❶

❷加温加湿器

人工鼻

❸

4 モードの設定

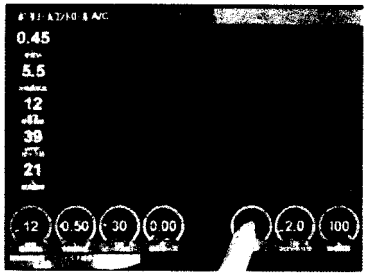


❶換気モードか表示されている部分

❷希望のモード

❸

5 換気条件の設定

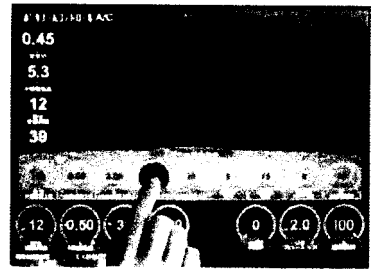


❶設定するパラメータ

❷タイヤル

❸

6 アラームの設定



❶

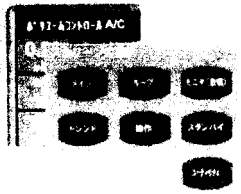
❷設定パラメータ

❸タイヤル

❹

AVEA の基本的な使い方

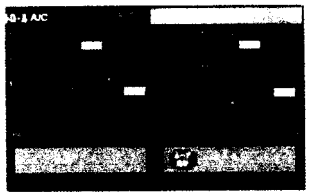
画面の選択



❶

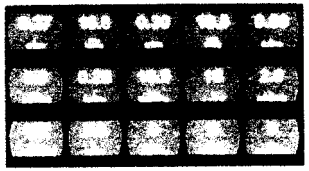
❷スクリーンの選択

❸



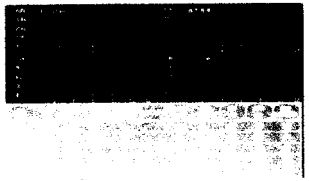
ループ

ループ



数値

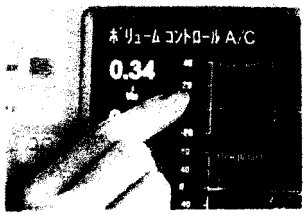
モニタ(数値)



トレンド

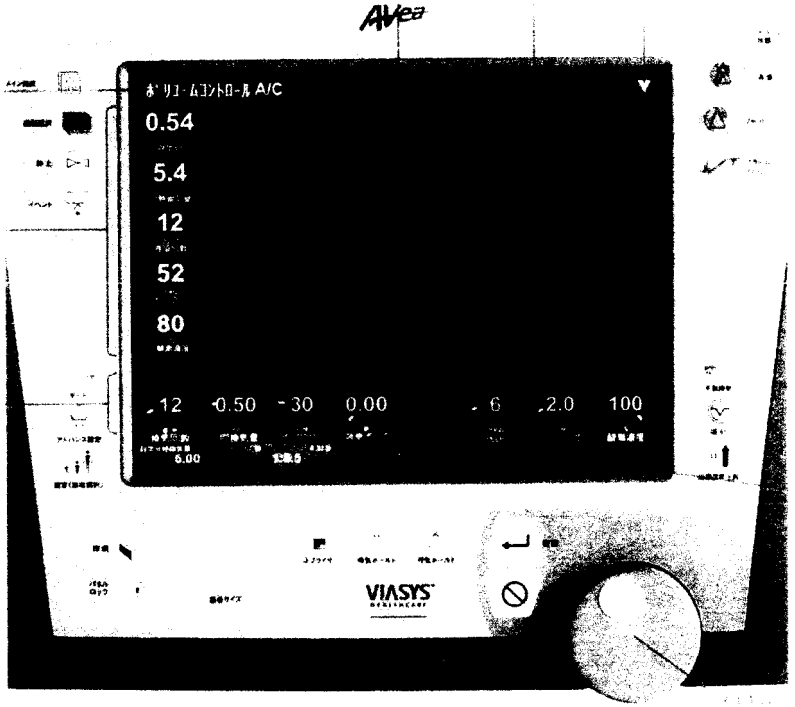
トレンド

波形のスケール変更



❶

❷



アラーム

アラームが作動した時は、インジケータが点滅し画面右上にメッセージが表示されます

	中優先〔注意〕	低優先〔助言〕

高・中優先アラームの表示一覧

	全停電発生
	電源ケーブル
	装着
分時換気量上限	
呼吸回数上限	
バッテリ電圧低下	

あとかたづけ　人工呼吸器チェックリストを参照してください

❶呼吸回路

❷加温加湿器のチャンバ

❸耐圧ホース

❹内部バッテリ

❺　　蒸発や結露

❻本体と加温加湿器

回路の滅菌・消毒方法

メンテナンス・保守点検

●

●

1. 使用前の点検手順

本手順を用いて、別紙記録ノートに点検結果を記入してください。

A)準備

点検項目	内容
1. 操作パネルの破損・汚れ確認	操作パネルのダイヤル・キー・LEDに破損・汚れがないことを確認。
2. 呼吸回路の接続	清潔で破損などがない完全な呼吸回路を、正しく接続（取扱説明書を参照）。
3. 加温加湿器（人工鼻）	①使用する加温加湿器の取扱説明書に従い、加湿チャンバー（モジュール）のセットアップ、滅菌蒸留水の「MAX」ラインまでの注入など必要な操作を実施。 ②チャンバーにひび割れがないことを確認。 ③ダイヤル・スイッチなどに破損・汚れがないことを確認。 ④人工鼻を使う場合は、使用前の点検がすべて終了し、患者さんへの使用直前にYピースの先端（患者接続部）に接続。
4. 気道内圧計のゼロ指示確認	ベアーカブ750psvを作動させていない状態で、気道内圧計が「0」を示していることを確認。
5. テスト肺の接続	破損のない小児用テスト肺を呼吸回路の患者接続部に接続。
6. 供給電源の確認	①本体と加温加湿器の電源プラグやコードに破損などがないことを確認。 ②モードダイヤルがスタンバイ(STANDBY)になっていることを確認し、電源プラグをホスピタルグレード（アース付）100VAC電源コンセントに差し込む(電源コンセントは、原則として非常用電源を用いる)。 ③AC電源及び内蔵バッテリインジケータが緑に点灯することを確認。 ④無停電電源装置を使用している場合は、その動作確認も実施。
7. 供給ガスの確保	①圧縮空気・酸素の耐圧ホースに破損などがないことを確認。 ②それぞれを供給源にしっかり接続。 ③圧縮空気源に移動式コンプレッサを使用する場合、その取扱説明書の記載に従って機能点検及びフィルタの汚れの点検を行い、出力圧が2.1～5.5気圧内（206～551kPa；30～80psi）であることを確認。
8. 簡易取扱説明書の具備確認	本体に簡易取扱説明書が具備されていることを確認。
9. 取扱説明書の有無確認	ベアーカブ750psvや加温加湿器、および付帯するものについての取扱説明書のあること、いつでも見られる状態になっていることを確認。

B) 始動

点検項目	内容
1. 電源投入	①モードを補助/調節（A/C）に設定。 ②作動開始時にヒューズ遮断がないことを確認（AC電源インジケータが消え、バッテリインジケータが赤に変わりアラームが発生しないことを確認）。
2. 供給ガス圧確認	モニタパネルの圧力表示切替キーを押し、エアーと酸素供給圧が2.1～5.5気圧内（206～551kPa；30～80psi）であることを確認。
3. 点検用条件設定	①以下のパラメータの設定を行う。または設定値を確認。

4. 供給電源アラーム	ベアーカブ750psv作動中に電源プラグを抜いた時、アラーム音が鳴りAC電源インジケータが赤色に点灯し圧力表示ウィンドーにE45が点滅することを確認。
5. 内蔵バッテリの確認	①4.の時、内蔵バッテリによって換気が継続されていることを確認。 ②内蔵バッテリ低下アラームが発生しないことを確認。 ③リセットキーを押す。 ④電源プラグを元に戻すと、AC電源インジケータが緑色になることを確認。
6. 供給ガス不良アラーム	①圧縮空気または酸素の耐圧ホースを供給源からはずした時、アラーム音が鳴り、供給ガス不良(LOW GAS SUPPLY)が点滅することを確認。 ②換気が継続することを確認。 ③接続を元に戻し、アラーム音が消えることを確認し、リセットキーを押す。

C) 換気動作

点検項目	内容
1. 作動状況の全体的な目視確認	①B)3.で設定した条件で作動していることを確認。 ②アラームの発生、インジケータの点滅、異常な動作音、異臭などがないことを確認。
2. 気道内圧モニタ確認	ピーク圧のモニタ値が40±4 cmH_2Oであることを確認。
3. 気道内圧の確認	①気道内圧モニタチューブをTコネクタ（患者接続部）からはずし、気道内圧計の示す値を読み取る。 ②ベアーカブ750psv本体側の気道内圧チューブを外し、気道内圧計の示す値を読み取る。 ③上記の①と②の圧に$2cmH_2O$以上の差がないことを確認。 ④チューブを元に戻し、アラームインジケータの点滅を消す。
4. テストの実施	①テスト(TEST)キーを押し、すべての表示が点滅し、アラーム音が聞こえることを確認。 ②テスト(TEST)キーから手を放すと4秒間作動時間の表示が行なわれ、通常換気に戻ることを確認。
5. 吸入気酸素濃度	①市販の酸素濃度計を用いて供給酸素濃度を測定・記録し、下記設定値に対して許容誤差範囲内（[] 内数値）であることを確認し、記録。 21%[21～24]測定値：　　% 60%[57～63]　　：　　% 100%[97～100]　　：　　% ②設定を21%に戻す。
6. 換気量	①ボリュームリミットダイヤルを30mLに設定し、一回換気量モニタ値が27～33であることを確認し、記録。 モニタ値：　　mL ②設定を300mLに戻す。
7. 換気回数	設定値（30回/分）に対し、モニタ表示（呼吸数）値が許容誤差範囲内（29～31回/分）であることを確認し、記録。

8. トリガ感度	①換気回数を 1 回/分に設定。 ②テスト肺を軽くにぎって離した時に自発呼吸インジケータが点灯し補助換気が行なわれることを確認。 ③換気回数を 30 回/分に戻す。
9. 手動換気	①モードを CPAP に設定。 ②手動換気キーを押すごとに機械換気が開始されテスト肺が膨らむことを確認。 ③モードを補助/調節にあわせ、表示選択キーを押す。

1.使用前点検

D) 警報作動

点検項目	内容
1. 低圧アラーム	①呼吸回路からテスト肺をはずす。 ②吸気圧上限ウィンドーで「LP」が点滅し、アラームが鳴ることを確認。 ③テスト肺を接続するとアラーム音が消え、「LP」が点灯に変わることを確認。 ④リセットキーを押す。
2. ｵｰﾊﾞｰﾌﾟﾚｯｼｬｰﾘﾘｰﾌﾊﾞﾙﾌﾟ圧の確認	①呼吸回路の呼気側を閉塞。 ②気道内圧がｵｰﾊﾞｰﾌﾟﾚｯｼｬｰﾘﾘｰﾌﾊﾞﾙﾌﾟの設定圧において開放されることを確認（機器背面にあるｵｰﾊﾞｰﾌﾟﾚｯｼｬｰﾊﾞﾙﾌﾟにて調節）。
3. 吸気圧上限・高気道内圧連続・呼吸回路異常アラーム	上記 2. から ①吸気圧上限アラームのインジケータが点滅し、アラームが鳴ることを確認。 ②高気道内圧連続(PROLONGED INSP PRESSURE)アラームのインジケータが点滅し、アラームが鳴ることを確認。 ③呼吸回路異常アラームのインジケータが点滅しアラームがなること、気道内圧が 5cmH_2O 以下にさがることを確認。 ④回路の閉塞を元に戻す。 ⑤アラーム音が消え、正常な動作に戻ることを確認。 ⑥リセットキーを押す。
4. 無呼吸アラーム	①換気回数を 1 回/分に設定。 ②10 秒後に無呼吸（APNEA）アラームが鳴り、インジケータが点灯することを確認。 ③換気回数を 30 回/分に戻し、しばらくするとアラーム音が消えることを確認。 ④リセットキーを押す。
5. 圧設定不良	①最大吸気圧を 20cmH_2O、PEEP/CPAP 圧を 20cmH_2O 以上に設定。 ②アラームが鳴り、圧設定不良インジケータが点滅することを確認。 ③最大吸気圧を 40 cmH_2O、PEEP/CPAP 圧を 0cmH_2O に戻す。 ④アラーム音が消え、通常の動作に戻ることを確認。 ⑥リセットキーを押す。
6. フローセンサ異常	①本体側のフローセンサ接続部をはずす。 ②アラームが鳴り、インジケータが点灯することを確認。 ③ボリュームリミット、分時換気量、低分時換気量のモニタに『――――』と表示されることを確認。 ④センサ接続部を元に戻すとアラームは消え、ボリュームリミット、

IMI ベアーカブ750psv
人工呼吸器チェックリスト

E) その他

点検項目	内容
1. 加温加湿器のウォームアップ	①加温加湿器の電源スイッチを入れ、適切な吸入温度（32～39℃）を設定（温度設定のできない加温加湿器の場合、口元の吸入温度が適切な温度となるよう、加温加湿器のヒーター出力値を設定）。 ②約 30 分間ウォームアップ。
2. 加温加湿器の状態	①吸気側呼吸回路で測定されるガス温度が、適正な温度（例：32～39℃）に暖められていることを確認。 ②Y ピース内側にうっすら湿気が付いていることを確認。
3. 併用する生体情報モニタ	①アラーム付パルスオキシメータ、アラーム付カプノメータを準備。 ②取扱説明書に従って機能点検を実施。
4. 手動式人工呼吸器（アンビュー蘇生バッグ）	①万一の作動不良などに備え、患者さんのそばに準備。 ②取扱説明書の記載に従って点検し、正常に機能することを確認。
5. コンプレッサ併用時	ベアーカブ 750psv を作動させている際に、コンプレッサの供給圧低下・過熱・アラーム作動などの異常がないことを確認。

2. 使用中の点検手順

本手順を用いて、別紙記録ノートに点検結果を記入してください。
注）！の項目を実施する場合は患者さんより呼吸回路をはずして行う場合もあるので、必ず容態を確認し、医師の許可を得てください。

A) 呼吸回路・加温加湿器

点検項目	内容	
1. 呼吸回路の確認・交換	①呼吸回路のチューブやコネクタ類がしっかり接続されており、ひび割れや破損がなく、リークがないことを確認。 ②院内の感染防止規定に則り、呼吸回路を定期的に交換。	
2. 加温加湿器の動作・チャンバーの交換	①設定温度や湿度で安定していることを確認。 ②吸気側蛇管の内側にうっすら湿気が付いていることを確認。 ③チャンバー（モジュール）にひび割れなどの破損がないこと、手を触れて暖かいことを確認。 ④チャンバーを院内の感染防止規定に則り、定期的に交換。	！
3. 呼吸回路内の水抜き	①呼吸回路内に水の貯留が見られる時には、呼吸回路内のウォータトラップに集約してから排出。 ②T コネクタ付近の水抜きは、患者接続部をはずして実施。	！
4. フローセンサの水抜き	①フローセンサに水や分泌物の貯留が起こるので、定期的にフローセンサを外し、フローセンサの水切りを実施。 ②付着物が多い場合には、即座に取り外し、乾燥したフローセンサに交換。 ③取り外したフローセンサはすぐに洗浄。 ④呼気弁が正常に作動していることを確認。	！
5. チャンバ内の水位確認	①水位を確認。 ②なくなる前に「MAX」のラインまで滅菌蒸留水を追加。	

B) 換気動作の確認

点検項目	内容	
1. 換気動作異常の有無	①患者さんの胸の動きと気道内圧計の針の指示を見て、設定条件通りの換気動作が行われていることを確認。 ②異常な動作音や異臭などがないことを確認。	

2. 換気条件設定	各種設定項目が医師の設定換気条件通りに維持されていることを確認。 換気モード　PEEP/CPAP　cmH_2O 最大吸気圧　cmH_2O　換気回数　回/分 吸気時間　秒　ﾎﾞﾘｭｰﾑﾘﾐｯﾄ　mL ベースフロー　L/分　吸気流量　L/分 吸入気酸素濃度　%	
3. 手動換気の動作	①呼吸回路を患者さんからはずし、患者接続部にテスト肺を接続。 ②手動換気キーを押すごとに呼吸回路にガスが送られ、テスト肺が膨らむことを確認。 ③呼吸回路を元に戻す。	！
4. 供給圧縮空気ラインへの水・塵埃の混入	本体裏面のウォータートラップに曇りや水や塵埃のないことを確認。	

C) モニタ値の確認

点検項目	内容	
1. 各種モニタ値の確認	各種モニタ値を確認し、記録。 呼吸数　回/分　吸気時間　秒 呼気時間　秒　I:E 比 ピーク圧　cmH_2O　平均圧　cmH_2O エアー供給圧　psi　酸素供給圧　psi 分時換気量　L/分　1 回換気量　mL リーク率　%	
2. 吸入気酸素濃度の測定	市販の酸素濃度計を用いて供給酸素濃度を測定・記録し、許容される誤差範囲内にあることを確認。	！

D) 警報設定の確認

点検項目	内容	
1. アラーム設定条件	医師から指示された設定条件が維持されていることを確認。 PEEP/CPAP 下限　cmH_2O　呼吸数上限　回/分 低分時換気量　cmH_2O　吸気圧上限　cmH_2O	
2. 低換気アラーム動作	①患者接続部から呼吸回路をはずす。 ②しばらくすると吸気圧下限、PEEP/CPAP 下限、無呼吸アラームのいずれかが鳴ることを確認。 ③呼吸回路を元に戻す。	！

3. 使用後の点検手順

本手順を用いて、別紙チェックリストを実施してください。

A)本体・加温加湿器

点検項目	内容
1. 電源スイッチ OFF/電源プラグを抜く	①モードダイヤルをスタンバイ(STANDBY)に合わせる（電源 OFF)。 ②電源コンセントから電源プラグを抜く。 ③プラグやケーブルに不具合や破損がないことを確認。
2. 耐圧ホースを抜く	①各耐圧ホースを供給ガス源からはずす。 ②接続部やホースに不具合や破損がないことを確認。
3. 本体損傷の有無	本体や加温加湿器に破損がないことを確認。
4. 本体清拭	①本体の汚れを拭き取る。 ②薬液や血液等で汚染された箇所があれば、清拭。(本体は滅菌不可)
5. 次回の定期点検時期	メンテナンス記録（定期点検済証）およびアワーメータを見て、製造元等の定期点検時期にある場合、速やかに定期点検を実施。
6. 取扱説明書の有無確認	ベアーカブ 750psv や加温加湿器、および付帯するものについての取扱説明書がいつでも見られる状態になっていることを確認。
7. 簡易取扱説明書の具備確認	本体に簡易取扱説明書が具備されていることを確認。
8. 圧縮空気供給ライン	本体裏面のウォータートラップに曇りや水や塵埃のないことを確認。
9. バッテリの充電	機器保管場所にて電源プラグを接続し、バッテリの充電を実施。 充電時間：約 4 時間

B)呼吸回路

点検項目	内容
1. 再使用型呼吸回路の取り外し・洗浄・消毒	メーカー指定の方法で消毒、または滅菌。
2. ディスポ呼吸回路の廃棄	メーカーの指定に従い廃棄。
3. 加湿チャンバー（モジュール)、人工鼻等の廃棄	①ディスポーザブル製品は廃棄。 ②リユーザブル製品はメーカー指定の方法で消毒、または滅菌。 ③人工鼻は、ディスポーザブルですので廃棄。
4. （吸気側・気道内圧）バクテリアフィルタ	①交換時期を確認。 ②交換時期であれば新品と交換。 ③滅菌する場合、オートクレーブ（メーカー指定温度で）のみ可能。 ④ディスポーザブル製品を使用している場合は廃棄。
5. フローセンサ	汚れが付着している場合、たんぱく分解酵素入り薬液で洗浄し、消毒・滅菌。

使用後点検記録ノート　ベアーカブ750psv人工呼吸器

このページを複写して、記録ノートとして使用してください

管理NO. ＿＿＿＿＿＿

シリアルNO. ＿＿＿＿＿＿

使用後点検

	実施日	／／	／／	／／	／／	／／
A)本体･加温加湿器	電源スイッチOFF/電源プラグを抜く					
	耐圧ホースを抜く					
	本体損傷の有無					
	本体清拭					
	次回定期点検時期					
	取扱説明書の有無確認					
	簡易取扱説明書の具備確認					
	圧縮空気供給ライン					
	バッテリの充電					
B)呼吸回路	再使用型呼吸回路の取り外し･洗浄･消毒					
	ディスポ呼吸回路の廃棄					
	加湿チャンバー(モジュール)の廃棄					
	吸気側･気道内圧用バクテリアフィルタ					
	フローセンサ					
	実施者サイン					

使用前点検項目

I 準備確認

(1)	加湿瓶に滅菌蒸留水を規定レベルまで入れる。 加湿器を吸気口にしっかりと取り付け、電源プラグを専用コンセント（本体左側面）に接続する。
(2)	ドレンユニットを呼気口にしっかりと取り付ける。
(3)	バクテリアフィルターを空気・酸素入口にしっかりと取り付ける。
(4)	呼吸回路をしっかりと取り付ける。
(5)	電源コードをしっかりと接続（本体右側面）し、プラグはＡＣ１００Ｖのコンセントに接続する。
(6)	O_2を使用する場合 ガスポケット用蛇管をバクテリアフィルターにしっかりと取り付ける。 O_2ガス供給源からのチューブを酸素供給用接続管にしっかりと取り付ける。

II 使用前の動作確認

(1)	回路内圧計がゼロ点を指していることを確認する。
(2)	基本動作の確認
	1) ヒューズの遮断や異常音・異臭がしないことを確認する。
	2) 呼吸回路にテストバッグを接続する。*1 必要なインジケーターが点灯、正常な動作をおこなうことを確認する。 回路内圧計はスムーズに動き、呼吸回路からの漏れがないことを確認する。
	3) トリガーが正常に作動することを確認する。
	4) リリーフバルブが正常に作動することを確認する。
	5) 一回換気量を実測し、希望する値になっていることを確認する。*2
	6) 手動換気時、ベローズがスムーズに動き、回路にガスが送られてテストバッグが膨らむことを確認する。
	7) O_2を使用する場合 酸素濃度を実測し、希望する値になっていることを確認する。*3
(3)	警報動作の確認
	1) 低吸気圧警報が正常に作動することを確認する。
	2) 設定不良警報が正常に作動することを確認する。
	3) 停電警報が正常に作動することを確認する。
	4) 警報音休止が作動し、２分後に警報音が正常に復帰することを確認する。（低吸気圧のみ）
	5) 警報音調整が正常に動作することを確認する。（停電警報以外で確認）
(4)	加湿器が正常に動作することを確認する。
(5)	医師の指示に従い、設定をおこなう。

*1： テストバッグは破損のないものを使用すること。
また装着時には、必ずバクテリアフィルターを付けること。（相互感染防止）
*2： 呼吸回路内に測定用の換気量モニターあるいはスパイロメーターを接続すること。
*3： 呼吸回路内に測定用の酸素濃度計を接続すること。

アコマ人工呼吸器 ARF-900E／ARF-900EII 使用前点検表

この点検表はオリジナルです。コピーして使用してください。
点検・確認した項目が、正常な場合は枠内にチェックマーク（レ）を記入します。
異常がある場合は、枠内にバツ（×）を記入し備考欄にその症状を記入します。

製造番号または管理番号：

年

月／日	／	／	／	／	／	／	／
点検者							
I 準備確認							
(1) 滅菌蒸留水注入、加湿器接続							
(2) ドレンユニット接続							
(3) バクテリアフィルター接続							
(4) 呼吸回路接続							
(5) 電源コード、プラグ接続							
(6) ガスポケット蛇管、O_2供給チューブ接続（O_2使用時）							
II 使用前の動作確認							
(1) 回路内圧計ゼロ点確認							
(2) 基本動作確認 1) ヒューズ、異常音、異臭確認							
(2) 基本動作確認 2) 基本動作確認							
(2) 基本動作確認 3) トリガー作動確認							
(2) 基本動作確認 4) リリーフバルブ作動確認							
(2) 基本動作確認 5) 一回換気量実測確認							
(2) 基本動作確認 6) 手動換気動作確認							
(2) 基本動作確認 7) 酸素濃度実測確認（O_2使用時）							
(3) 警報動作確認 1) 低吸気圧警報作動確認							
(3) 警報動作確認 2) 設定不良警報作動確認							
(3) 警報動作確認 3) 停電警報作動確認							
(3) 警報動作確認 4) 警報音休止／自動復帰作動確認							
(3) 警報動作確認 5) 警報音調整確認							
(4) 加湿器動作確認							
(5) 医師の指示値の確認							
備考							

使用中点検項目

以下の確認事項は、患者から呼吸回路をはずしておこなう場合があるので、必ず患者の容体を確認したのち医師の許可を得てからおこなうこと。

III 使用中動作確認	
(1)	呼吸回路ユニット、ベローズがしっかりと取り付けられ、緩み・破損・漏れなどがないことを確認する。
(2)	呼吸回路がしっかり接続され、破損・漏れなどがないことを確認する。
(3)	吸気バクテリアフィルターを２４時間ごとに交換する。
(4)	呼吸回路内（蛇管など）やドレンユニットカップ内に水が溜まり過ぎていないことを確認する。
(5)	加湿器は設定温度・湿度で安定して動作していることを確認する。 また加湿瓶内には滅菌蒸留水が不足していないことを確認する。
(6)	医師から指示された設定条件が維持されていることを確認する。
(7)	医師から指示された警報設定条件が維持されていることを確認する。
(8)	患者の胸の動きや回路内圧計の動きから、正常な換気動作がおこなわれていることを確認する。 また異常音・異臭などが無いことを確認する。
(9)	一回換気量を実測し、希望する値になっていることを確認する。*2
(10)	酸素濃度を実測し、希望する値になっていることを確認する。*3

*2： 呼吸回路内に測定用の換気量モニターあるいはスパイロメーターを接続すること。
*3： 呼吸回路内に測定用の酸素濃度計を接続すること。

アコマ人工呼吸器 ARF-900E／ARF-900EII 使用中点検表

この点検表はオリジナルです。コピーして使用してください。
点検・確認した項目が、正常な場合は枠内にチェックマーク（レ）を記入します。
異常がある場合は、枠内にバツ（×）を記入し備考欄にその症状を記入します。

製造番号または管理番号：

月 ／ 日	／	／	／	／	／	／	／
人工呼吸器使用指示者							
点 検 者							
III 使用中動作確認							
(1) 呼吸回路ユニット、ベローズ接続状態確認							
(2) 呼吸回路接続状態確認							
(3) バクテリアフィルター交換（24時間ごと）							
(4) 呼吸回路、ドレンカップ水分除去							
(5) 加湿器設定温度・湿度状態確認、水量確認							
(6) 設定状態維持確認							
(7) 警報設定状態維持確認							
(8) 正常換気動作、異常音・異臭確認							
(9) 一回換気量実測確認							
(10) 酸素濃度実測確認（O_2使用時）							
備 考							

使用後点検項目

IV 使用後確認	
(1)	人工呼吸器の電源を切り、電源プラグをコンセントからはずし、外観破損箇所の有無を確認する。 薬液や血液で汚れている所は清掃する。
(2)	呼吸回路、バクテリアフィルターをはずす。 ディスポ製品のため、安全な方法で処分する。
(3)	加湿器は電源プラグを専用コンセントからはずし、吸気口からはずす。 ドレンユニットは呼気口からはずす。 各々分解し、滅菌、消毒、または洗浄をする。終了後、乾燥させ、確実に組み立てる。*4
(4)	呼吸回路ユニット、ベローズを本体からはずし、分解して滅菌、消毒、または洗浄する。 終了後、乾燥させ、確実に組み立てる。*4
(5)	累積使用時間を記録する。 使用時間や定期点検シールで点検時期の確認をし、点検時期の場合は、速やかに点検の手続きをする。

*4： 滅菌、消毒、洗浄方法の詳細は、取扱説明書を参照すること。

アコマ人工呼吸器 ARF-900E／ARF-900EII 使用後点検表

この点検表はオリジナルです。コピーして使用してください。
点検・確認した項目が、正常な場合は枠内にチェックマーク（レ）を記入します。
異常がある場合は、枠内にバツ（×）を記入し備考欄にその症状を記入します。

製造番号または管理番号：

年

月 ／ 日	／	／	／	／	／	／	／
点 検 者							
IV 使用後確認							
(1) 外観検査・確認、清掃							
(2) ディスポ製品処分							
(3) 加湿器、ドレンユニット清掃 加湿器、ドレンユニット組立							
(4) 呼吸回路ユニット、ベローズ清掃 呼吸回路ユニット、ベローズ組立							
(5) 累積使用時間記録							
備 考							

メンテナンス記録

5000 時間オーバーホール							
月 ／ 日	／	／	／	／	／	／	／
確認者捺印							